

「福音のために」

2014年09月21日

マルコによる福音書8章35節～9章1節。「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。神に背いたこの罪深い時代に、わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子もまた、父の栄光に輝いて聖なる天使たちと共に来るときに、その者を恥じる。」また、イエスは言われた。「はっきりしておく。ここに一緒にいる人々の中には、神の国が力にあふれて現れるのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

主イエスはペトロの「あなたは、メシアです」という「キリスト告白」を受けて、弟子たちに初めて、またはっきりと十字架の死と復活について予告された。十字架の死によって人間の罪を贖い、復活によって神の命を啓示する、神から託されたキリストの使命を語られた。しかし、弟子たちにとっては思いも及ばぬ、また、理解できない言葉であった。彼らは主イエスを愛し、ペトロが「キリスト告白」をしたように、メシアと信じていた。彼らにはメシア・キリストとはダビデ王のような地上の王としての像であった。主イエスが示される十字架の死に向かうキリストと弟子たちが求めた力ある王としてのキリストの間には、結び合わない乖離があった。主イエスは弟子たちの無理解を承知のうえで、十字架と復活を予告し「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と語られた。この言葉はキリスト教信仰の核心であり、十字架の死に至る主イエスだけが語ることのできる言葉である。

その後、「自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」という言葉の内実を示す言葉を語られた。自分自身を求める者は、それを手にすることはできず、自分自身を失うことになる。主イエスのため、福音のために命を失う者は、神から確かな命を与えられる。主イエスに起こる十字架の死から復活の命に与る秘儀があなたにも起こる。更に、続けて、全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何になる。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えるか。地上の諸々は入手に値しない。神からの命こそ、何を差し置いても求めるべきものである。神に背いている罪深い時代に、私と私の言葉を恥じる者は、私が神の栄光に輝いて天使と共に来る時、神のみ前で恥じ入るであろう。主イエスと福音を拒絶する者は、歴史の終わりの時、神から拒絶されると、終末時の厳しい裁きを語っている。

これらの言葉に、私は応えられない。主イエスのため、福音のために命を捨てた多くの方々がいる。最大の敬意を表している。しかし、私はそうではなかった。牧師として働き、それなりの努力と苦労はあったが、失ったものより得たものの方がはるかに大きい。

私は自分のような者が生きていいのかと問い続けてきた。主イエスが十字架において、「よし」と是認してくださる福音にしがみついて生きてきた。主イエスのために失ったのではなく、福音にひたすら与ってきた。喜びと感謝が私の人生であった。上記の御言葉の最後に「神の国が力にあふれて現れるのを見るまでは、決して死なない者がいる」と語っておられる。生かされている今、そして召された後も「死なない」神の永遠の命に与っていくことを厚かましくも願っている。